

## 第23回軽金属学会特別功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



神戸 洋史 君

(日産自動車株式会社  
パワートレイン生産技術開発本部  
パワートレイン技術企画部  
パワートレイン技術統括グループ  
シニアエキスパート)

神戸 洋史 君は、1986年に日産自動車株式会社に入社し、材料研究所において自動車用軽金属材料の研究開発および適用技術開発を行ってきた。特に耐摩耗アルミニウム合金として铸造性、被削性に優れた過共晶Al-Si合金を開発し、実用化に貢献した。1991年からは生産技術部署でアルミニウム合金ダイカスト・鋳物に関する生産技術開発と適用部品開発を行っている。特に、適用部品拡大のため、いち早く大型高真空ダイカストを導入し、サスペンション部品や車体部品への適用技術開発を行った。これらの開発内容は、学会のシンポジウム等で発表し、技術の普及に努めている。また、新しい生産技術として、铸造鍛造工法の基礎技術開発と適用技術開発を行い、ロードホイールに適用した技術が高く評価され、1997年に小山田記念賞を受賞した。

「アルミニウム高圧铸造凝固研究部会」に1995年から幹事として参加し、2005年から立ち上げた「高信頼性ダイカスト・鋳物铸造技術研究部会」では部会長を務め、新しい铸造技術の基礎研究に貢献した。また、1999年から毎年、秋期大会の実行委員を務め、第107回秋期大会、第135回秋期大会では副実行委員長を、第121回秋期大会では実行委員長を務め主催者側として貢献した。さらに、ICAA12では実行委員も務めた。特に、1999年から企画委員として自動車関連の一連のシンポジウムを企画し、その後、総務委員、編集委員、研究委員、広報委員を務め、2011年からは軽金属ユーザーから初めての理事に就任し、企画委員長として活躍した。2017年からは監事を務めている。関東支部では、2007年から運営委員として活動し、若手講演会やポスターセッションの実施に主導的な立場で貢献してきた。

以上のように同君は研究者として軽金属、特にダイカストおよび軽合金鋳物に関する铸造技術の発展に寄与し、そして長年にわたる学会活動全般にわたり運営参加だけでなく主催者側として多大な貢献をしてきたこれまでの功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会特別功労賞を授与する。